

事業所名	はぐ（放課後等デイサービス）	支援プログラム	作成日	令和7年9月19日
法人（事業所）理念	本人、家族が気軽に相談でき、生活の基盤等を一緒に考えていけるようにしていく			
支援方針	・安心できる環境を作りその中で様々な欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・幅広い年齢の友達や大人との生活の中で、子ども自身の興味や関心が触発され、好奇心を持って自ら関わりたくなるような環境を作る。 ・身近な地域における様々な体験を通じて興味や関心の幅を広げるとともに、将来、地域の中で快適な社会生活を送れるようにする。 ・家庭への相談援助や学校等の関係機関との連携を実施する。			
営業時間	平日 学校休業日	10時00分から 9時00分	18時00分まで 17時00分	送迎実施の有無 ありなし
支援内容				
健康・生活	<p>①『健康状態の把握』・・・平日は学校担任から休日は保護者から丁寧に引き継ぎを行います。通所時の体温、おやつ等の食べ具合、水分の摂取具合等を把握します。また、会話や表情を通して健康状態を把握します。また、エトワールでの生活を通して、自分の体を大切にしようとする心を養います。</p> <p>②『健康の増進』・・・毎月のクッキングや外食等を通して食を営む力の育成や食を楽しむ感覚を養います。また、補助箸やスプーン等の支援、トイレトレーニングの支援を行い、基本的な生活リズムを身につける支援を行います。</p> <p>③『基本的生活スキルの獲得』・・・身だしなみや身の回りを清潔に保つ事が意識できるように声かけを行います。また、手洗いや手指消毒、歯磨き、掃除や着替え等の支援を行います。</p> <p>④『構造化等により生活環境を整える』・・・タイマー、ホワイトボード、マグネット、種類分けや色分けしたおもちゃ箱等を使用し、片付ける時間や場所が理解できるよう構造化します。</p>			
運動・感覚	<p>①『姿勢と運動・動作の基本的技能の向上』・・・サーキット運動、壁掛けピッティング等の活動を通じてバランス感覚、筋力向上、手足の動きや注意力を養います。</p> <p>②『身体の移動能力の向上』・・・ウォーキングやサーキット運動を通じて歩行能力や移動能力の向上のための支援を行います。</p> <p>③『保有する感覚の活用』・・・粘土遊びや人工雪遊び、足浴やスヌーズレン、プールや制作活動等を通じて様々な素材に触れる機会を提供し、感覚刺激遊びから保有する感覚を十分に活用できるように支援します。</p> <p>④『感覚の補助及び代行手段の活用』・・・保有する力を十分に発揮できるように必要に応じて、イヤーマフや眼鏡等の着用を促します。</p> <p>⑤『感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応』・・・苦手な音、声、におい等に配慮し、必要に応じてプライベートスペース等を確保し対応します。また、気分転換にウォーキングにでかけたり、別室で過ごすなど個別に対応します。</p>			
認知・行動	<p>①『感覚や認知の活用』・・・当日の日付や曜日、活動内容やグループ分け等をホワイトボードにわかりやすく掲示します。また、活動ではタイマーやホイッスル、ネームマグネットやカラーテープ等を使用し、視覚、聴覚等の感覚を十分に活用して、情報を収集できるように支援します。</p> <p>②『認知や行動の手掛かりとなる概念の形成』・・・外出の機会を多く設定します。晴れの日、雨の日等の外出やおやつの買い物、外食等の体験から、ルールを学び、環境から情報を取得し、選択し、行動に繋げられるように支援します。</p> <p>③『数量、大小、色等の習得』・・・色水遊びや水風船遊び、ボーリングやすごろく、積木やブロック遊び、クッキング等を通じて数や色、物の大きさ等に触れる機会を作ります。</p> <p>④『認知の偏りへの対応』・・・外食やデリバリー等のいつもと違う環境の中で食事の経験できるように支援します。また、偏食のある児童に対しては、安心した環境の中で「食べてみよう。」と思えるように環境を整えます。食べたくない時には「いらない」を伝えられるように支援します。</p> <p>⑤『行動障害への予防及び対応』・・・絵カードやマカトン、身振りや指差し等により視覚的にアプローチをし、コミュニケーションの難しさから生ずる行動障害の予防と適切行動への対応の支援を行います。</p>			
本人支援				

言語 コミュニケーション	<p>①『言語の形成と活用』・・・クイズやしりとり、かるた等の言葉遊びを中心に物や言葉への興味を促し、言語の習得に繋げます。</p> <p>②『受容言語と表出言語の支援』・・・友達の前で発表する機会を作ります。制作や粘土遊び等で自分の作った作品の紹介や感想を自分なりに伝える練習をします。</p> <p>③『人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得』・・・友達や職員と一緒に活動に取り組む経験を通して、共同注意の獲得、また、コミュニケーション能力の向上のための支援を行います。</p> <p>④『指差し、身振り、サイン等の活用』・・・個々の様々な表現方法を認め、受容し、言葉以外での伝え合いを繰り返し、自分の思いを伝えたくなるような雰囲気や関係を作ります。</p> <p>⑤『読み書き能力の向上のための支援』・・・ボーリングや壁掛けピッチング、すごろく等の活動から点数やピンの数を数える『数字』。サイコロの出目やすごろくのマスに書いてある『文字』に触れる機会を作ります。</p> <p>⑥『手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用』・・・文字やマカトン、絵カードや音声などの多様なコミュニケーション手段を学校や家庭と連携し、適切に選択し、個々の特性に応じた手段を活用します。</p>		
人間関係 社会性	<p>①『アタッチメント（愛着行動）の形成』・・・身近な大人との受容的な応答的な関わりの中で職員との愛着を拠りどころにして、欲求を適切に満たし、安定感を持って過ごせるように支援します。</p> <p>②『模範行動の支援』・・・幅広い年齢の友達との活動や遊び、また、職員との関わりから様々な気付きや学びの場を提供し、あこがれ等の気持ちを抱き、友達や職員のマネをすることにより、社会性や対人関係のめばえを支援します。</p> <p>③『感覚運動遊びから象徴遊びへの支援』・・・サークル等の感覚運動遊びから、積木やままごと、粘土等の象徴遊びを通して少しずつ社会性の発達を支援します。</p> <p>④『一人遊びから協同遊びへの支援』・・・積木やブロック、パズルなどの一人遊びに職員が介入し、友達と同じ空間を共有しながら遊ぶ経験ができるよう支援します。少しずつルールのある遊びや役割分担のある活動（協同遊び）に参加できるよう支援します。</p> <p>⑤『自己の理解とコントロールのための支援』・・・職員との関わりの中で自分の気持ちに折り合いをつける経験、友達に譲る経験、順番を守り待つ経験などができるようになります。自分を理解し、気持ちや情動の調整ができるよう支援します。</p> <p>⑥『集団への参加の支援』・・・幅広い年齢の友達や異性、大人との関わりを促します。協同で行う制作（壁面制作など）を通じて、友達と一緒に物事をやり遂げる経験ができるよう支援します。また、ごっこ遊びに職員が積極的に介入することにより、様々な友達も交えて遊べるように支援します。</p>		
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・家族からの相談や悩みに対しての助言。 ・きょうだいについての相談援助。 ・家族のレスパイトのための延長支援。 ・地域の講演会やサロン等のイベント案内。（発達講座、ペアレントセンター相談会、作品展、お祭り等） 	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や関係機関と支援内容の擦り合わせ等の連携会議の開催。 ・将来、地域で生活するために必要な経験の場を提供する。（買い物、外食、公共交通機関利用、地域住民との交流等） ・就労移行先との情報共有。
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携会議の開催。 ・相談支援専門員との情報共有や会議。 ・就学前に通所していた園との交流や連携会議の開催。 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修への参加と伝達研修（虐待防止、権利擁護、感染症予防、マナー、ハラスメント、強度行動障害等） ・内部研修の実施（人権、ハラスメント、身体拘束適正化、感染防止等）
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・季節行事（七夕、ハロウィン、クリスマス会、節分等）・クッキング（月1回） ・外食（不定期開催） ・公共施設見学（不定期開催） 		